

まちづくり交付金 フォローアップ報告書

阿寒湖温泉地区

平成22年10月

北海道釧路市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	観光客入込数	人/年	1,700,000	1,900,000	1,040,000	確定 見込み	●	×	あり なし	1,031,513	H22年5月	×	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	観光業不振の状況下で、国内の団体客の落ち込みが大きく、入込客数の増加は見られなかった。
指標2	コミュニティ施設利用者数	人/年	4,134	19,200	19,500	確定 見込み	●	○	あり なし	19,246	H22年4月	○	☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	市民ニーズにあった利活用しやすい地域交流センターの整備により、市民サービスの向上が図られ、施設を中心とした市民活動が促進された。
指標3	自然保護活動参加者数	人/年	500	1,000	500	確定 見込み	●	×	あり なし	143	H22年6月	×	天候不良による行事中止(4事業)により大きな差異が生じた ☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	阿寒湖畔エコミュージアムセンター主催事業の天候不良による中止等により、目標達成には至っていないが、景観学習事業への参加者増、さらにはツアーガイド養成等により、今後の自然保護事業参加者の増加が見込まれる。
指標4						確定 見込み			あり なし		H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み			あり なし		H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	防災拠点施設収容人員	人	106		130	確定 見込み	●				H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	防災機能の向上に資する地域交流センターの整備により、災害時の収容人員が増となり、防災拠点施設としての機能が向上した。
その他の数値指標2	観光案内所利用者数	人/年	22,188		32,300	確定 見込み	●			36,181	H22年4月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	観光情報発信機能を併せ持つ地域交流センターの整備により、観光案内所利用者が大幅増となったことから、今後の観光入込客数の増が期待される。
その他の数値指標3						確定 見込み					H 年 月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	観光情報発信機能、観光案内体制の強化	・観光案内所機能の充実(多目的施設への移転、広報機能の強化) ・ツアーガイド及びデスクマンの養成	・観光情報発信機能を併せ持つ地域交流センターの整備により、観光案内所利用者が大幅増となった ・ガイドツアーメニューの充実が図られた。	・先進地視察や外部研修への派遣等の手法を取り入れ、若手の後継者育成に取り組む。 ・3年間の実務研修後、ニューツーリズム旅行商品の企画開発、管理運営を担う。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	個人宿泊客の増加、宿泊客の滞在時間の延伸を図る	・アイヌ文化のブランド化事業(アイヌ古式舞踊の充実、「千本タイマツ」や「イオマンテの火まつり」のロングラン開催等)	・ブラッシュアップした各種イベントの開催により、賑わいを見せた。	アイヌ文化の伝承、保存、普及並びに地域観光の振興等を図るため、平成23年12月までに(仮称)阿寒湖温泉アイヌシアターを建設する。
	商店街や主要観光施設の魅力向上を図る	・商店街活性化事業(新・ご当地グルメ「阿寒やきとり丼」の開発、温泉街駐車場無料化の社会実験等) ・国設阿寒湖畔スキー場事業の再生(イベントプログラムの充実)	・新・ご当地グルメがH22・4月に商品化され、好評である。 ・スキー場の利用者数が増加した。	新・ご当地グルメと連携した昼間の賑わい創出を図るなど、継続した商店街の魅力向上及び利便性の向上。
	温泉街の道路の整備改善と歩行者優先とする交通システムの導入	市道阿寒湖畔中央道路の一部歩道を補修。	東西に二分されている商店街地区を結ぶ幹線道路が歩きやすく整備され、観光客や地域住民等の歩行時における安全性が確保された。	誰もが歩きやすく、安全でわかりやすい交通システム(車両の通行規制、循環バスの導入、駐車場の再編など)の実現を図っていく。
	美しい景観・優れた自然環境を楽しめる街づくり	花いっぱい運動を継続。	温泉街に花が増えて美しくなったことにより沿道景観のイメージアップとなり、観光資源として集客力を高めることに繋がる可能性が期待できる。	温泉街であることを感じられる景観を創出し、温泉街全体を国立公園にふさわしい、自然と調和したさらに美しい街にする。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

あかんこおんせんちく
阿寒湖温泉地区

北海道釧路市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	釧路市	地区名	阿寒湖温泉地区	面積	100 ha
計画期間	平成18年度～平成21年度	交付期間	平成18年度～平成21年度				

目標 大目標：『こちよい湖畔、のんびり温泉 阿寒湖』 目標1：滞在滞在体験型観光の推進 目標2：交流拠点を核としたコミュニティ機能の充実 目標3：自然と共生する観光地づくり							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・明治39年に故前田正名氏が阿寒湖畔に入り開発に乗り出して以来、阿寒湖温泉地区は北海道有数の観光地として発展してきた。昭和9年には国立公園に指定され、70年が経過している。 ・当地区は、市街地が阿寒湖湖岸沿いに形成され、大型ホテル・土産品店などが並んでおり、市街地中心を東西に横断する市道と市街地南部を東西に横断する国道の間に細長く市街地が形成されている。 ・当地区は国立公園内に位置しており、周囲は豊富な森林資源に囲まれ、自然公園法による規制区域の第1種及び第2種特別地域の集団施設地区に指定されているため、一定の開発制限がされている。 ・当地区には約1,700人の定住人口があるが、観光地として年間170万人の交流人口が発生している。当地区の観光客の入り込みは、平成12年度までは増加傾向にあったが近年は入り込みが減少傾向にある。このため団体観光から個人やグループ等への旅行形態の変化や、見るだけの観光から体験する観光へのニーズの変化への対応が急務となっている。また、アジア地域における北海道観光の人気の高まり、各国からの観光客は増加傾向にあり、観光のグローバル化への対応にも迫られている。 ・地元では、観光産業の活性化による地域の再生のためには地区全体での取組が必要として、ホテルなど観光関係者とコミュニティ組織である町内会により住民主体のまちづくり組織である「阿寒湖温泉活性化検討委員会」を発足。観光客減少の原因分析から当地区の観光地としての魅力や資源活用のあり方について、ワークショップを交えて議論を深め、10年後のグランドデザインを描いた「阿寒湖温泉再生プラン2010」を策定した。このプランでは、従来の通過型観光から脱却し、滞在型・体験型観光へのシフトを目標としており、恵まれた観光資源の有効活用を図るための様々なソフト事業は地域住民が自らの手で展開しており、ハード面の整備については、その検討機関である「国立公園阿寒湖運営協議会」に国及び北海道の参画を得て、官民の連携・協働による整備を進めているところである。市としても総合計画における重点施策として観光産業を位置付けし、整備を推進している。							
課題 ・当地区については、市街地が狭いため、観光客のための空間と日常生活の空間が混在し、温泉街情緒を阻害している。また、商店街形成が東西2つに分かれているため、人の往来が少ない。 ・大型バスやマイカーの市街地乗り入れにより、狭い通りにも路上駐車などがあり、また、誘導看板なども不足していることから、徒歩で散策する観光客の快適性を失わせており交通システムの改善を図る必要がある。 ・当地区の住民は、ホテル従業員と土産品店の従業員を中心としていることから、他の地域からの転入者が多く、サークル活動などを通じたコミュニティ活動の強化が必要であり、地元住民の熱心なまちづくりの取組みを支える拠点施設などの整備により、まちの活性化を図ることが課題となっている。							
将来ビジョン(中長期) ・本年度からスタートした旧阿寒町新総合計画では、通年・滞在滞在型観光の推進、新たな観光資源の創造、観光施設の整備拡充を重点に取組み、阿寒湖温泉地区における「阿寒湖温泉再生プラン2010」の実現について関係機関と連携し推進することとともに、急増する海外からの観光客への対応の充実により国際観光地としての確立を図るとしている。 ・また、同計画において、コミュニティ活動を促進するため、阿寒湖温泉地区にコミュニティ施設の整備充実を図ることとしている。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光客入込数	人/年	阿寒湖温泉地区の観光客入り込み数	観光案内機能の強化や国際的視野に立ったプロモーション活動を促進し、滞在滞在・体験型観光を推進することにより、観光客の20万人増を目指す。	1,700,000	平成16年度	1,900,000	平成21年度
コミュニティ施設利用者数	人/年	阿寒湖畔福祉センター及び(仮称)阿寒湖温泉多目的施設の利用者数	コミュニティ、観光インフォメーション、行政サービスなどの複合施設整備により交流拠点が整いコミュニティ形成等の充実により1万5千人増を目指す。	4,134	平成16年度	19,200	平成21年度
自然保護活動参加者数	人/年	阿寒湖温泉地区における各自然保護活動への参加者数	自然との共生には、地域住民が自然を理解し守る活動は必要であり、清掃活動等へのボランティア、自然環境保全教育の推進を図ることにより、自然保護活動への参加者数の倍増を目指す。	500	平成16年度	1,000	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・整備方針1 滞在滞在体験型観光の推進 滞在滞在・体験型観光の推進及び歩いて温泉街を楽しめる街なみづくりのため、2分している商店街地区を結ぶ幹線道路の歩道を改良したより歩きやすい環境を整備するとともに、現在ある各所の手湯などと花壇や誘導サインなど一体性のある整備を進め、観光客がホテル周辺から温泉街全体を楽しめるゾーニングと体験できる観光資源のプログラムなどを整備する。	まちづくり活動推進事業(提案事業:阿寒湖温泉再生2010推進事業、マップ作製事業、商店街のにぎわいづくり事業、花いっぱいプロジェクト) 地域創造支援事業(提案事業:阿寒湖温泉多目的施設整備事業) 地域創造支援事業(提案事業:公共施設解体撤去事業)
・整備方針2 交流拠点施設の整備充実 観光客がゆったりと温泉街を楽しめる「見る、体験する」プログラムづくりや地域住民がゆとりある快適な生活が送れるような環境を整備し、阿寒湖温泉地区のホスピタリティ向上を図り、コミュニティ機能を高めるため、地域交流センターや広場を整備する。さらには、大型バスや来訪者の車を市街地に滞留させないため、適切な誘導方法や駐車場について、NPO法人による社会実験を行ない、抜本的な交通システムの改善を図る。	高次都市施設(基幹事業:地域交流センター整備) 公営住宅整備事業(関連事業:まりも団地) 地域生活基盤施設(基幹事業:広場) 地域創造支援事業(提案事業:阿寒湖温泉多目的施設整備事業) 地域創造支援事業(提案事業:公共施設解体撤去事業) まちづくり活動推進事業(提案事業:阿寒湖温泉再生2010推進事業)
・整備方針3 自然との共生 豊富な自然環境を適正に保護・活用し、特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」の保護活動やエコミュージアムセンターを核とする自然保護活動の推進を図る。さらには観光資源としての利活用を図るため、湖岸の整備を進め、遊覧観光船の船着場との連動性を高めるとともに地域特性に応じた花壇整備や環境に適合した住環境の整備を推進する。	地域生活基盤施設(基幹事業:広場) 地域創造支援事業(提案事業:公共施設解体撤去事業) 公営住宅整備事業(関連事業:まりも団地) 阿寒湖畔公園整備事業(関連事業:湖岸整備)
その他 ①阿寒湖温泉の再生に向けた取組みについて 温泉街の地域住民とホテル、土産品関係の代表者が平成12年に「阿寒湖温泉活性化検討委員会」を設立し、温泉街の現状と国内の観光地の状況などあらゆる点で問題や課題を整理し、それらの克服に向け「阿寒湖温泉活性化基本計画 阿寒湖温泉再生プラン2010」を策定した。この計画においては、団体型観光からの脱却を目指し、観光客のニーズに対応できる温泉地区の姿を描き、具体的な整備目標や事業を計画的に実施することとしており、これまでのホテル依存型の観光地づくりから地域全体で観光資源を有効活用し、相乗効果を高めながらまちづくりを進めることとしている。 この地域住民の力による計画を具体的に推進するため、地域の有志により「阿寒湖温泉まちづくり協議会」が設立され、現在では地域の女性による「まりも倶楽部」という活動組織も設立され、女性ならではの情報発信や郷土料理の取り組みも実施されている。 さらに、この計画を地域住民と協働で推進するために、国や北海道、市の組織と地元まちづくり協議会で構成する「国立公園阿寒湖運営協議会」を立ち上げ、面的な整備と共にソフト事業などの展開を進めている。 平成16年度に「阿寒湖温泉まちづくり協議会」が「全国都市再生モデル調査」の調査地区に選定され、「温泉街まるごとマーケティングシステム構築調査―温泉街全体の来訪者満足度調査」を実施し、阿寒湖温泉来訪者の満足度から、温泉街として何が不足しているかをつかみ、今後の温泉街の再生へ活用する取り組みを実施した。 また、現在、観光イベントの中心的組織となっていた「阿寒観光協会」とまちづくりの推進母体である「阿寒湖温泉まちづくり協議会」が合体し、NPO法人「阿寒観光協会まちづくり推進機構」として新たな出発をはじめている。今後は、再生プランと観光イベントとの展開を一体化することによる地域全体の取り組みへと発展することが可能となり、まちづくり、温泉地づくりがさらに一歩前進することが期待できる。 本年度においては、さらに急増する外国人観光客に対応すべく、国の「観光ルネサンス事業」の支援を受けるべく、NPOが中心となり、新たな外国人観光客にも当地区を楽しんでいただくためのソフト事業の展開を申請し、採択された。 ②事業終了後の継続的なまちづくり活動について 「阿寒観光協会まちづくり推進機構」において「阿寒湖温泉再生プラン2010」の成果や評価分析を行ない、概ね10年間ごとにさらに温泉街の活性化に向けたプランニングを継続的に実施し、変化する観光客のニーズや国際化に柔軟に対応するとともに、国の進める「観光立国日本」の推進を地域としても積極的に進め、国際社会への対応を模索することとしており、今後も継続してまちづくり活動を推進していく。 ③交付期間中の計画の管理について ・当該計画に関する進捗状況や実施レベルでの諸問題の解決のため、官民協働の取組み母体である「国立公園阿寒湖運営協議会」を定期的に開催する。 ・市議会に対しても計画内容、事業の進捗状況を報告し、市の総合計画との整合性などについて議論してもらう。 ・市の発行する「まちづくりニュース」やまちづくり機構の発行する「ニュースレター」において、積極的に住民に広報活動を展開し、地域一丸となった事業実施に努める。 ④防災機能の向上 ・地域交流センター((仮称)阿寒湖温泉多目的施設)については、平常時は地元住民や観光客のコミュニティ施設としての役割を果たすが、災害時には避難所としての役割を担い、地域の防災機能の向上を図る。	

